

会議録

会議の名称	第10回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成25年2月13日（水曜日） 午前10時00分から11時00分まで
開催場所	イングビル第3・4会議室
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、石黒委員、長谷川委員、村田委員、町田委員、柴田委員、坂本委員、山田委員、高井委員 事務局：萱野課長、五十嵐課長補佐 （欠席）宇田川委員、本橋英次委員
議題	1 開会 2 議題 （1）第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議（案）の承認について （2）西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（平成25年3月改訂版）（案）の承認について 3 報告 （1）第3回西東京市都市農業フォーラムの報告について 4 その他
会議資料の名称	資料1 第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議（案） 資料2 2-1 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画改訂の概要 2-2 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（平成25年3月改訂版）（案） 2-3 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画改訂関係資料 資料3 第3回西東京市都市農業フォーラムの実施報告 「みどりの散策マップ（みどり公園課作成）」
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
事務局： 2月1日付けで、JA東京みらい保谷支店指導経済課の本橋課長が昇任及び異動となり、町田課長が後任として本委員会の委員となった。町田委員に、委嘱状を交付させていただく。 (委嘱状交付) 1 開会	

○会長：

定足数に達しているのですが、ただ今より、第10回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を開催する。

(傍聴者確認 傍聴者なし)

2 議題

(1) 第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議録(案)の承認について

○事務局：

資料1 第9回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議録については、1月10日に各委員へ郵送にて配布し、1月25日までに修正・訂正の連絡をいただきました。本日の資料は、いただいた修正・訂正内容を反映している。

○会長：

資料1について、会議録の内容を確定し、公開することに異議はないか。

○委員一同：

異議なし。

(2) 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画(平成25年3月改訂版)(案)について

○事務局：

- ・資料2 2-1 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画改訂の概要
- ・2-2 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画(平成25年3月改訂版)(案)
- ・2-3 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画改訂関係について説明。

○会長：

資料2-1が実施計画の改訂内容の「概要版」となっている。変更点については、各事業実施及び整備内容を整理して明記をしている。保谷駅南部エリアは「(仮称)蔵のある農業体験農園」という体験農園全体の整備を行うのではなく、「農のアトリエ(蔵の里)」とし、蔵をアトリエスペースとして展示、交流、情報交換や勉強会を開催できる場とする整備へと変更になった。

多摩湖自転車道沿い交流エリアについては、「植木の学校」から「緑のアカデミー」へと名称が変更され、事務局、田無緑化組合、JA、協力農家等の尽力により、イベントを実施することができ、良い形で事業のスタートができたと思う。

「(仮称)ファームセンター」については、「(仮称)農業普及啓発プロジェクト」へと方向転換をし、その目的を農業普及啓発にしている。もともとファームセンターで計画をしていた直売に関しては、「めぐみちゃんマーケット」の中で位置付けて、「(仮称)ファームカー」を活用することとしている。

「めぐみちゃん弁当・メニュー」については、「めぐみちゃんメニュー」という具体

的な形に絞り込んだ名称へ変更となった。

各委員からのご意見、ご質問があったらお願いしたい。

○委員：

配布資料の中にある「みどりの散策マップ」にはルート設定がされているが、本事業で平成25年度に行う「農とのふれあい散歩ルート」には関係があるのか。

○事務局：

「みどりの散策マップ」は、みどり公園課が作成したものである。本事業で行う「農とのふれあい散歩ルート」は、本事業で整備したエリアを中心に、市民の皆さんに農に親しんでいただくことを目的とし、他部署で作成しているマップ等とも連携を図りながら、活用をしていきたいと考えている。

○委員：

本事業で検討した「農とのふれあい散歩ルート」の情報発信は、どのように行うつもりなのか。

○事務局：

他部署の事業との連携も含めた複合的な情報発信を行う。

平成24年度までの実施計画の中では、ルートを設定しマップを作成するということが目標としていた。しかし、本日配布した「みどりの散策マップ」やその他「はなバスルート」等のように、行政の中でも色々なルート設定をしており、既に個々の色々なルートがある中で新たなルート設定が必要であるのかということを検討した。

例えば田無駅南部エリアであれば、「みどりの散策マップ」と、50箇所設置をされた樹木プレートがタイアップすることで、より相乗効果を図っていこうという考え方である。ご指摘の情報発信の方法については、例えば「緑のアカデミー」開催時にルートを案内したり、実際にルートをみんなで散策してみたりということが行えればと考えている。

なお、産業振興課で所管している「西東京市おでかけマップ」は、平成21年度に東京都より補助金をいただき作成をした。今後、平成26年度を目途に新しいマップを作成する予定なので、関係各課と連携をしながら情報発信をしていきたい。

また、ホームページでは先行してみどり公園課や都市計画課と連携した情報発信をしていきたいと考えている。

○会長：

本推進委員会の前段の協議会の時に、「農とのふれあい散歩道」については、マップを作成することが目的ということではなく、市民に散歩道を散策してもらいながら農のある風景に目を向けてもらい、農に親しんでもらうことを目的として考えられた経緯があったかと思う。

また、田無駅南部エリアに設置された案内看板も同様の考え方で設置された。既に他部署でも散策を推奨するマップがいくつか作成されている中で、更に新たなマップを作成することには個人的にも意味があるのかと感じる。しかし、実際にイベント時にルートを歩くということだけでは、年数回程度となってしまう勿体ないと思うので、予算と

の調整の中で、市民が普段歩いている時にも楽しめるような「仕掛け」を検討してみても良いのではないかと思う。

○事務局：

ご指摘を踏まえて検討をしたいと思う。現在は、部会が立ち上がっていないが、実施計画改訂が委員の皆様からご承認をいただけたら、指摘を受けた課題を踏まえ、部会での検討を進めたいと思う。また、「めぐみちゃんのまちづくりだより」も併せて活用して、情報発信をしたいと思う。

○委員：

市が中心となって事業を行っているとは思いますが、西東京市内では、西武鉄道も駅を基点にした季節の「散策マップ」等を作成してPRをしている。西東京市も他の自治体の事例にもあるように、西武鉄道とのタイアップを働きかけることを考えてみてはどうか。せっかくルートを設定するのだから、幅広い形で活用したり、情報発信をしてほしい。

○事務局：

西武鉄道とは、昨年7月に市内にあるアニメ制作を行っている「シンエイ動画」とタイアップした事業を展開している。委員ご指摘のような取り組みは、今後協力していくことは可能かもしれない。また、17日（日曜日）には、近隣の5市（東村山市、東久留米市、小平市、清瀬市、西東京市）が共催で「たまるくと ご当地グルメフェスティバルinくるめ」を開催するので、そのような横の連携のイベント等でも活用していければと考えている。

○委員：

「農とのふれあい散歩道」は「農とのふれあい散歩ルート」に変更ということだが、資料2-2の19ページの中での表現が「散歩道」と「散歩ルート」という言葉が混在しているので、整理をする必要があるのではないか。

○会長：

「ルート」と「道」は、意味は同じだと思うが、「ルート」という表現よりは「道」の方が、市民の方々には分かりやすい気もする。実施計画の中での変更としては、マップづくりを行うのではなく、実質的な「ルート」を作ることだと思うので、事務局には検討をしてもらいたい。

○事務局：

事業の名称は「散歩道」とし、作業内容については「ルートづくり」という表現で整理したい。

○会長：

具体的には19ページの（2）、（3）の事業名が「農とのふれあいルートづくり」ではなく、「農とのふれあい散歩道づくり」と変更になる。

○委員：

資料2-2の14ページに出てくる「まちの農業」という言葉が新しく出てきたように思う。今までは「農」や「農業」という表現を使っていたかと思うが、「まちの農業」という言葉を使う意図と意味はあるのか。また、「まちの農業」という表現は、東大生態調和農学機構及び市域全体エリアのみで使用されているが、他のエリアへの反映は行わないのか。

○事務局：

普及啓発事業は、市域全体を「面」として広くとらえているため、この表現を使用している。

「まちの農業」という表現を使用する意図としては、普及啓発をプロジェクトとして掲げていく中で、より農業を市民の皆さんに親しみやすく、身近に感じてもらえるのではないかの考えによるものである。農業という言葉を広く身近に感じてもらい、普及啓発プロジェクトを実施していくという考え方である。このような意図で「まちの農業」という表現を使用している。言葉の定義というよりは、普及啓発プロジェクトへのイメージを広く膨らませてもらえればという意図である。

○委員：

「まち」という言葉を使ってイメージを膨らませていくという考え方だと理解した。確かに「都市農業」という表現ではとても固くなるし、事業のイメージをつかむことが難しいように感じてしまう。

○事務局：

ご指摘のとおりで、普及啓発というイメージの中で、市民の皆さんの生活に近い距離で農業を知っていただくという思いが込められている。また、「都市農業」という表現はどうしても固い印象を与えてしまい、ここでは事業のイメージを打出すためにこのような表現を使用している。

○会長：

「まちの農業」という表現は、（仮称）農業普及啓発プロジェクトのみに使用するのか。

○事務局：

そのように考えている。

○会長：

この「まちの農業」という表現は、他の計画等で使用されている表現なのか。それとも本事業のためだけに作られた表現なのか。

○事務局：

多分ないかと思う。この表現を使用した意図は、「農業」を市民の方々に分かりやすく、親しみやすくイメージしていただくことが挙げられる。また、市主催の農業関連のイベントでも「まちの農業」という表現は使用している。

○会長：

他に質問がなければ、本日指摘のあった箇所について修正を行い、実施計画の改訂を行う。ご異議ないか。

○委員一同：

異議無し。

○会長：

「異議無し」ということなので、実施計画改訂について承認を得たものとする。

3 報告

(1) 第3回西東京市都市農業フォーラムの報告について

○事務局：

資料3 第3回都市農業フォーラムの報告について説明。

当日参加者の方へ実施したアンケートについては、現在集計を行っている。

4 その他

○会長：

その他で何か意見があればお願いしたい。

○委員：

先日の都市農業フォーラムにも参加をしたが、コーディネートが上手にできていたかと思う。フォーラムだけではなく、農業もコーディネートが重要なのではないか。

例えば援農ボランティアに関しても、援農先とボランティアをコーディネートすることが重要だと思う。今は団塊世代が大量に退職をしているので、市が窓口となり農家と農家のお手伝いをする人とのコーディネートを行ってはどうか。

リタイアした人たちは行き場がないと感じている人もいるかと思う。居場所づくりの一助を担うことにもなるのではないか。また、先日援農先で近隣の方々が参加してのダイコンの収穫とたくあんづくりを行った。働き盛りの世代の方々にも多数参加いただき、皆さん畑での作業で日々の疲れが癒されたようだ。こういう人たちと農家とのコーディネートもあれば良いのではないか。援農ボランティアは、あまりスキルの高さを求めるのではなく、もっと参加のハードルを低くして、参加しやすいようにしてはどうか。農家によっては、スキルの高さは求めていない農家も多数いるように思う。

○事務局：

貴重なご意見に感謝する。今のご指摘は、「コーディネート」と「担い手」の2つのポイントがあるかと思う。今年度、東京都主催の援農ボランティア養成講座である「東京の青空塾」を13名の市民の方々が修了した。初めて修了者が2桁の人数となった。援農ボランティアと援農先とのマッチングについては、現在、農業振興計画の策定過程でも検討課題となっている。

今後、市でもマッチングについては更なる検討を進めていきたい。また、今年度から実施している北町にある「農のアカデミー体験実習農園」での取り組みは、援農ボランティアのスキルアップだけではなく、指導農家の方々とのコミュニケーションをとおし

て、マッチングにも結びついているかと思う。今後も積極的に取り組みを進めていきたいと思う。

○会長：

ロコミの力も重要なツールとなるので、行政の動きを連動していければ良いのではないかな。

○委員：

都市計画課では、西東京市のコミュニティバスである「はなバス」を5ルート運行している。近隣市町では最多の運行ルート数となっていることが売りとなる。はなバスルートを示したマップがあるので、個々の部署でバラバラにルートやマップを作成するのではなく、それぞれに連携をして相乗効果を高めていければと思う。都市計画課としても最大限協力をして連携を図っていきたいと考えている。

○会長：

「花摘みの丘」は、はなバスの第1ルートの停留所に面しているなので、何らかの形ではなバスと連動して市民の方々へ情報発信が行えれば良いのではないかな。

○事務局：

次回の推進委員会は、次年度となるので、本日の会議録は別途各委員へ郵送の上、内容の確認をしてもらい、ご承認をいただきたい。

○会長：

それでは、以上をもって第10回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を終了する。

(閉会)